

まちがいがいさがし クイズ

左右の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはラグーナの湯無料利用券をプレゼントします。

応募締切 12月16日(月)

企画広報課 ☎66♦1145

応募方法

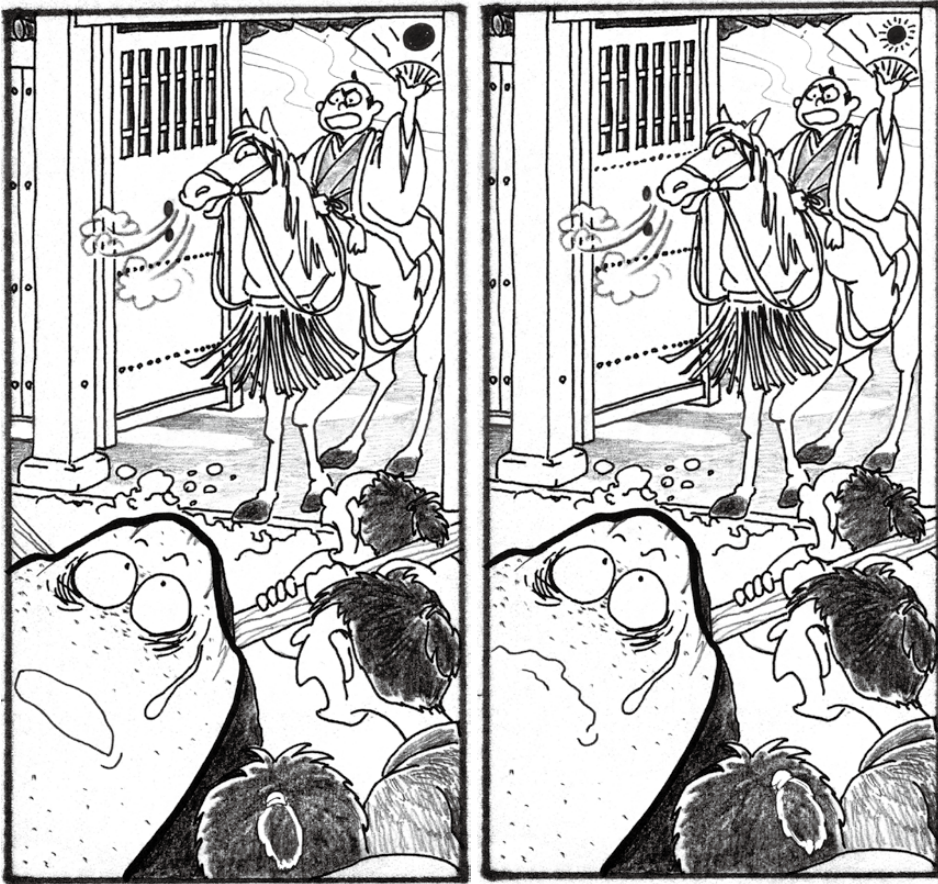
ハガキまたはファックスに、①答え(左の絵に○をつける)と②住所・③氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話番号・⑥広報紙の感想・ご意見などを書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり1月号に掲載しますので、「ご承ください」。

応募方法

〒443-8601 旭町17番1号
企画広報課「クイズ」係 FAX 66♦1190



とうふねこ座：市川雅子 画



「鶴のひと声橋」(本町)

ある年のことだった。降り続いた大雨が側溝からあふれ出した。溝の土壁が崩れ始めた。
「た・た・たいへんだー! 落ちこちっちゃったぞー」
「なんだ・なんだあ、何が落ちこちんだ?」
「松平のお殿様とこにある石橋だ!」
「陣屋の大手門にかかっているあの石橋が溝に落ちこちたのか? たいへんだ!」
水が引くと、さっそくお殿様の命令で橋のかけ直し作業が始まり、町衆が集められた。橋に使われていた石の大きさはたいへん縦265センチ横123センチ厚さ20センチ程だ。
ところが、みんながどんだけ力を合わせても落ちこちた石が持ち上がらない。まるで根が生えたようにドーンと踏ん張っている。そのうち日が傾いてきた。困り果てた家老がお殿様に
「いかがいたしましょうか?」とお伺いすると、お殿様はカンカンになって、
「かごときな石じゃ。余がじきしきに検分するぞ。馬をひけえ!」
白馬に乗ったお殿様が大手門にやってきて側溝を見下ろすと、人々が棒を使って石を担ぎ上げようと悪戦苦闘している。お殿様は日の丸の扇をバサッと開くと、
「この石橋よ、よく聞け! この土地で余の命令に背くとはおとどき至極じゃ! もとの場所に戻って皆のために働け、余の一刀のもとに切り捨てられるがいいかよ! 考えよ!」
とたんに石はウンのように軽くなって、スルリと大手門の前に架けられました。
「お殿様の鶴のひと声で、あの頑固な石が動いちゃった!」
「まさにお殿様のお言葉は鶴のひと声だわ! 家来たちも町衆も感心しきりだった。」
それからこの石橋は、鶴のひと声橋といわれるようになった。

明治の県道の改修工事でこの石橋は取り払われましたが、本町の大岡屋さんの中庭に現在も保管されています。竹谷松平家大手門は蒲都市博物館の入口門となっています。

【参考資料】「ふるさと探訪」著者・足立睦男
「西の都の民話 ほんとのんほい」著者・足立睦男
「竹谷松平氏 西の都の殿様」

◆10月号の答え

おめでとございませう。賞品は12月初旬に発送します。

10月号まちがいがいさがしクイズ(75ポイント)の当選者
応募総数73通
正解者67人

当選者(敬称略・50音順)

形原町 市川紀美
拾石町 井上恵利
拾石町 小田美瑚
大塚町 小林貞介
大塚町 小林久恵
豊岡町 鈴木副由
清田町 伴 久彦
府相町 藤井滝江
大塚町 堀たつ江
形原町 吉見真琴

